

# 関西眼疾患研究会 平成25年度事業報告書

平成25年1月1日より平成25年12月31日まで

本年の事業については、平成25年度の事業計画に基づいて実施し、本会の目的達成に努力した。

## 1. 会員へ向けての定期講演会

1. 1月23日(水) 第352回 関西眼疾患研究会特別講演  
米谷 新(埼玉医科大学) 「眼底検査法進歩の落とし穴」
2. 3月6日(水) 第353回 関西眼疾患研究会特別講演  
Joo Yeon Oh (Yonsei University College of Medicine)  
「A unique tyrosine kinase based regulation of corneal angiogenesis」
3. 5月22日(水) 第354回 関西眼疾患研究会特別講演  
落谷 孝広(国立がん研究センター研究所)  
「microRNAの基礎から臨床応用まで：分泌型microRNAの発見がもたらす生物学へのインパクト」
4. 6月19日(水) 第355回 関西眼疾患研究会特別講演  
Julie T Daniels (UCL Institute of Ophthalmology)  
「The role of the stem cell niche in cell therapy」
5. 7月3日(水) 第356回 関西眼疾患研究会特別講演  
羽藤 晋(慶應義塾大学) 「幹細胞からの角膜内皮再生」  
稲垣 絵海(慶應義塾大学) 「角膜内皮細胞におけるClaudinの発現」  
James Jester (The Gavin Herbert Eye Institute)  
「Collagen Macrostructure and Corneal Shape: Lessons from different species.」  
「The effects of age and evaporative stress on Meibomian gland function in the mouse.」
6. 7月17日(水) 第357回 関西眼疾患研究会特別講演  
雑賀 司珠也(和歌山県立医科大学)  
「角膜実質創傷治癒におけるTGFベータシグナルの調節機構」
7. 8月28日(水) 第358回 関西眼疾患研究会特別講演  
Cristina Schnider (University of California) 「Effect of UV on eye in SCL wears」  
中村 葉(京都府立医科大学) 「オルソケラトロジー」  
Fiona Stapleton (University of New South Wales) 「Making contact lens wear safer」

8. 9月25日(水) 第359回 関西眼疾患研究会特別講演  
Carlos Mateo. MD (Autonoma University of Barcelona)  
「My pearls and tricks dealing with PVR Retinal Detachment」
9. 10月2日(水) 第360回 関西眼疾患研究会特別講演  
坂本 泰二 (鹿児島大学) 「加齢黄斑変性における網膜色素上皮について」  
「細胞移植再生医療における免疫学的課題についての1考察」
10. 10月23日(水) 第361回 関西眼疾患研究会特別講演  
富田 恭彦 (京都大学) 「科学：そのしなやかなるが故に強靱な」

## 2. 海外研究者との情報交換会

### 1. 3月3日(日) Prin Rojanapongpun

・タイの Chulalongkorn University の Prin Rojanapongpun 先生をお招きして研究会を開催した。我が国とタイでの緑内障病型の差違とスクリーニングについて討論を行った。またアジア地域における主要な失明原因となっている閉塞隅角緑内障については、森和彦講師が開発した隅角スパーク・手術用隅角鏡の有用性についても討論を行った。今後のタイ国との連携の礎となる有意義な研究会であった。

### 2. 4月3日(木) Sophie Den, Johd Metha

・角膜内皮治療および培養上皮移植治療について専門家の意見を交換した。

### 3. 4月7日(月) Sophie X Deng

・研究会では、角膜輪部上皮細胞のbiologyとWntシグナルの関係についてご講演いただいた。懇話会では中国、USAでの教育システム環境、研究環境のための設備、人材について日本との違いをディスカッションした。またJules Stein Eye Instituteの施設の現状についてお話いただいた。基本的には日本と同様の問題を抱えており、世界共通で同じ問題を抱えていることがわかった。また研究についてステムセルの役割、角膜上皮幹細胞の役割についてDeng先生の考え方をお聞きした。いずれの話も大変興味深く、角膜上皮幹細胞の研究分野がまだまだ未成熟で今後の研究の必要性を感じることができ、大変有意義な懇話会であった。

### 4. 6月19日(水) Julie Daniels, Stephen Tuft, Louise Morgan, Alex Shortt

・共同研究打ち合わせでは、UK側が開発した人工実質(RAFT)のfirst in manへの研究の方向性や実際の方針に関して、実務レベルまでの内容の詳細を話合った。特に、家兎を用いた実験動物モデルに関して、その枠組みや、前臨床応用の手順にいたるまでを詳細に意見交換した。講演では、日本側からは教室の中村隆宏が、角膜上皮幹細胞のこれまでの研究の歴史や最新の知見をオーバービューした。次に、Julie Daniels 教授による角膜上皮上皮幹細胞の生物学的特性に関する講演をされた。特に、角膜上皮の解剖学的特徴から、細胞を分類する手法(crypt vs non crypt)は、今後我々の幹細胞を用いた角膜再生医療研究を進める上で、大変有意義であり、学問的に貴重な機会であった。同日、さらなる交流を目的に慎ましやかに開かれた。懇話会でも、最先端の角膜組織工学や幹細胞研究に関する情報を交換し、大変貴重な有意義な機会であった。また、分野にとらわれることなく、視野を広く保ち、研究を進めていく必要性を話し合うことができた。また、現在までの研究計画、研究結果の問題点、課題等に関して非常に貴重なdiscussionを互いに伺うことができた。今回の Moorfields Eye Hospital との共同研究に関する打ち合わせならびに研究会は、我々眼科グループの医師にとって非常に教育的な内容であり、たいへん有意義なものであった。

5. 7月3日(水) James Jester、Andrew Quantock
  - ・研究会では角膜実質のコラーゲンの配列についてヒトのみならず哺乳類から鳥類、魚類まで3Dの動画で示していただき、その配列の違いによる剛性に違いが生じることをお話いただいた。懇親会では研究会では予定されていたが、時間の都合上割愛されたマイボーム腺の機能についていくつか質問をさせていただいたところ、基礎的な観点と臨床的な観点を交えながら熱のこもったお話をしていただいた。今回の講演会および懇話会は、角膜の種を超えた基礎的な研究のみならず、臨床に結びつくようなヒントを与えていただける大変有意義なものであった。
6. 9月25日(水) Carlos Mateo
  - ・研究会では強度近視による黄斑円孔網膜剥離に対する黄斑バックリングの有用性をお話ししていただいた。懇親会では器材や手術のコツなど、より具体的な方法や、他疾患への手術に対する考え方などを教えていただいた。また Mateo 先生の勤務されている IMO について、スペインの医療事情など他国での眼科医の役割についてお話ししていただいた。非常にフランクでありながら丁寧な先生の姿勢を拝見しながら、異国ではあるが臨床医として共感、尊敬できる側面を見させていただいた。
7. 11月4日(月) David Beebe
  - ・眼の発生過程についてディスカッションを行った。眼の発生には lens placode が重要で、そこには Pax6 が重要であること、またその後の眼杯形成には ECM が重要で、それにより細胞が増殖し invagination が始まる。マウスの個体を使って、様々な遺伝子、特に転写因子をノックアウトする手法を用いて、その遺伝子の働きを in vivo で見ていくことで数多くの新しい知見が得られることを教えていただいた。またその手法の中で、BMP4 を介するシグナルが重要であることも示された。in vivo と in vitro で観察できることは異なるため、できるだけ生体内での働きを見ることが重要であることを教えていただき、また Beebe 先生のサイエンスに対する情熱に触れることができ、大変有意義な研究会であった。

### 3. オープンフォーラム（共催：参天製薬株式会社・京都眼科医会）

#### 1. 第 41 回京都眼科フォーラム（参加者数：146 名）

平成 25 年 2 月 23 日（土） テーマ：『症例で学ぶ眼科疾患アップデート』

前田直之（大阪大学）「角膜疾患ではどう見えないのか？」

山本哲也（岐阜大学）「症例で学ぶ緑内障診断のこつ」

直井信久（宮崎大学）「最近の網膜の症例から」

後藤浩（東京医科大学）「意外な展開を示したぶどう膜炎症例の数々」

- ・好評の「症例シリーズ」として、角膜疾患、緑内障、ブドウ膜炎、網膜疾患の超エキスパートの先生方を招き、選りすぐりの症例から明日からの臨床に役に立つ最新かつ最良の考え方を学ぶいい機会となった。

#### 2. 第 42 回京都眼科フォーラム（参加者数：126 名）

平成 25 年 7 月 27 日（土） テーマ：『診療に役立つ症例検討会 パートⅡ』

狩野廉（福島アイクリニック）「症例に学ぶ～緑内障診断のここが押さえどころ」

清水公也（北里大学）

「角膜屈折矯正手術後の IOL 度数計算 角膜曲率前後面比補正と Double-K method」

石龍鉄樹（福島県立医科大学）「眼底自発蛍光で気づいたこと、気づいた疾患」

柏井聡（愛知淑徳大学）「視神経疾患の診断と治療」

- ・このところ大好評をいただいている症例検討会を今回も企画させていただき、緑内障・神経眼科・屈折矯正手術・網膜の各分野の最前線でご活躍の先生方をお招きして、とっておきの症例や各分野のトピックスをお聞かせいただいた。

#### 4. 眼科診療アップデートセミナー

平成 25 年 3 月 2 日（土）～3 日（日）ウェスティン都ホテル京都（参加者数：400 名）

3 月 2 日（土）

- 「眼瞼腫瘍の診断と治療」 渡辺彰英（京都府立医科大学）
- 「アレルギー性結膜炎の診断と治療」 庄司純（日本大学）
- 「MGD とドライアイ」 天野史郎（東京大学）
- 「角膜ヘルペス」 井上幸次（鳥取大学）
- 「弱視の診断と治療」 佐藤美保（浜松医科大学）
- 「最近話題の神経眼科疾患と“4”」 中尾雄三（近畿大学）
- 「遠近両用コンタクトレンズ」 塩谷浩（しおや眼科）
- 「屈折矯正手術の適応と選択」 木下茂（京都府立医科大学）
- 「無水晶体眼への対処法 眼内レンズ強膜内固定術」  
太田俊彦（順天堂大学医学部附属静岡病院）

3 月 3 日（日）

- 「OCT による緑内障評価」 溝上志朗（愛知大学）
- 「臨床診断と視野進行因子」 森和彦（京都府立医科大学）
- 「薬物治療と手術治療」 杉山和久（金沢大学）
- 「網脈絡膜腫瘍の診断と対応」 平形明人（杏林大学）
- 「黄斑疾患と抗 VEGF 療法」 石橋達朗（九州大学）
- 「ぶどう膜炎へのアプローチ」 園田康平（山口大学）
- 「眼内レンズ選択の考え方」 宮田和典（宮田眼科）
- 「角膜内皮疾患の診断と治療」 西田幸二（大阪大学）
- 「涙液クリアランスを考える」 大橋裕一（愛媛大学）

## 5. KPUM Strategy Council

平成 25 年 5 月 25 日（土）ハイアットリージェンシー京都（参加者数：40 名）

中川紘子	「角膜内皮疾患眼における広範囲での内皮細胞動態の評価」
戸田宗豊	「角膜内皮細胞の幹細胞膜特性」
田中寛	「角膜上皮細胞におけるバリア機能およびサイトカイン産生に対する レバミピドの効果」
北澤耕司	「角膜上皮幹細胞のコア転写因子の同定」
上田幸典	「眼窩骨折における骨折部位と形状の検討」
吉川晴菜	「前房水中の酸化ストレスによる緑内障の病態進展」
木村健一	「はじめての実験で思うこと」
加藤弘明	「ドライアイにおける眼表面上皮障害に関与する因子の検討」
木村直子	「瞬目高速解析装置を用いた瞬目測定」
加藤浩晃	「新規ドライアイ点眼薬の開発に向けて」
山岸哲哉	「近赤外自発蛍光の臨床利用」
羽室淳爾	「学んで思わざれば則ち罔し 思うて学ばざれば則ち殆し」

- ・京都府立医科大学眼科において研究に従事するものが一同に介して、研究の進捗状況の報告と今後の方向性を検討することを目的として、第 20 回視覚再生フロンティア研究成果発表会を開催した。大学院生研究発表はプレゼンテーション（10 分間）の後に討論（3 分間）を行った。質問は活発に行われ、大学院生の今後の研究について有意義な討論が交わされた。教員と大学院生のみならず研究顧問の羽室淳爾特任教授にもご出席いただき、ご自身のアカデミアと企業の両方で研究に従事されたご経験に基づいて包括的なお立場からのコメントやご助言をいただいた。

羽室淳爾特任教授には「学んで思わざれば則ち罔し 思うて学ばざれば則ち殆し」と題した講演をいただいた。加齢黄斑変性に対する研究の戦略について、全体像から、現在までの研究進行内容、また今後の研究課題の内容について、ご自身の研究背景を交えてご講演いただいた。

今後の当教室の研究の発展につながる有意義な会議であった。

## 6. 視覚再生フロンティア研究発表会

平成 25 年 12 月 21 日(土) ウェスティン都ホテル京都

田中寛	「ヒト多能性幹細胞から神経堤細胞への分化誘導」
木村直子	「瞬目高速解析装置を用いた瞬目測定」
中川紘子	「フックス角膜内皮ジストロフィ患者の遺伝子解析」
加藤弘明	「角結膜上皮障害と涙液および瞬目の因子との関連性の検討」
山岸哲哉	「近赤外自発蛍光の新知見」
丸山悠子	「ES 細胞を用いた自己組織化技術」
吉川晴菜	「緑内障と酸化ストレスについて」
上田幸典	「眼窩骨折における骨折部位と形状の検討」
北澤耕司	「角膜上皮幹細胞のコア転写因子の同定」
加藤浩晃	「レクチンマイクロアレイを用いた眼表面疾患の病態解析」
木村健一	「再生医療新法について」
羽室淳爾	「非科学と未科学：研究に感じる苦悩」

- ・ 京都府立医科大学眼科において研究に従事するものが一同に介して、研究の進捗状況の報告と今後の方向性を検討することを目的として、第 21 回視覚再生フロンティア研究成果発表会を開催した。大学院生研究発表はプレゼンテーション（10 分間）の後に討論（5 分間）を行った。質問は活発に行われ、大学院生の今後の研究について有意義な討論が交わされた。教員と大学院生のみならず研究顧問の羽室淳爾特任教授にもご出席いただき、包括的なお立場からのコメントやご助言をいただいた。羽室淳爾特任教授には「非科学と未科学：研究に感じる苦悩」と題した講演をいただいた。角膜内皮に対する研究の戦略について、現在まで成功してきた研究内容から、現在その成功をより精度の高いものへと研究している内容について、ご講演いただいた。また厚生労働省へ出向中の木村健一先生には再生医療新法についてご講演いただいた。今後の当教室の研究の発展につながる有意義な会議であった。



## 7. アイセミナー

### 1. 2月1日（金）第1回 アイセミナーフォーラム

山根 真（横浜市立大学附属市民総合医療センター）

「症例から学ぶ眼内レンズ強膜内固定法」

臼井 嘉彦（東京医科大学） 「感染症ぶどう膜炎の診療」

根岸 貴史（順天堂大学） 「泣かさず診るとこんなに楽しい小児眼科」

武蔵 国弘（むさしドリーム眼科）

「眼科医療の普及を真剣に考える。～ロービジョンケア、医療監修、遠隔「地」医療～」

### 2. 4月12日（金）第2回 アイセミナーフォーラム

大石 明生（京都大学） 「光視症の鑑別診断」

飽浦 淳介（串本リハビリテーションセンター） 「無縫合 ECCE」

森山 無価（東京医科歯科大学） 「近視研究の最前線」

大島 佑介（大阪大学） 「重症糖尿病網膜症におけるアバスタチンの功罪」

### 3. 8月17日（土）第3回 アイセミナーフォーラム

徳田 直人（聖マリアンナ医科大学） 「はじめての緑内障インプラント手術」

橋田 正継（町田病院） 「眼内レンズ縫着術の極意」

丸子 一郎（東京女子医科大学） 「高侵達 OCT による脈絡膜観察」

木下 茂（京都府立医科大学） 「How to Become a Successful Clinician-Scientist」

## 8. その他

- ・会員が定期講演会を閲覧できるオンラインサービス「iseminar」をスタートさせた
- ・ホームページを用いて本研究会の活動内容や活動成果を公表した